

|      |                     | 提言・具体策    |  |   | 意見・批判等   |   |
|------|---------------------|-----------|--|---|--|---|
|      |                     | 課題        | 党がやるべきこと(政策立案)   | 党がやるべきこと(その他)   | パートナーズの仕組み、やるべきこと  |   |
| 党の改革 | 選挙の反省               | 刷新        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○女性を中心とした「革新」のイメージをアピール(14)(45)</li> <li>○執行委員と代表者の交代(16)(41)(46)</li> <li>○党名の変更(21)(28)</li> <li>○党名は変えるべきではない(26)</li> <li>○辻元代表、小川幹事長(40)</li> </ul>   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新代表になってから優柔不断に見える。(4)</li> <li>・内輪揉めばかりしているというイメージ(9)</li> <li>・メディア露出が足りない。(5)</li> <li>・旧民主党時代の反省が無いのでは(20)</li> <li>・党本部の参議院選総括は不十分であり、執行部として大きな責任がある(22)</li> <li>・「民主」という名称は「嘲笑」の対象(28)</li> <li>・松尾候補に対する取り組みの不足、候補者の力不足、都連の責任である。(50)</li> <li>・泉代表が辞任をするのは広報面で不利(51)</li> </ul>                 |
|      | 人材・能力               | 政策実現能力    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○党が強い地域の市町村における政策立案・政策実現(子育て特区など)(25)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○立憲の統治能力の見える化が必要(1)(13)</li> <li>・埼玉県、武蔵野市、中野区等、立憲自治体ベルト</li> </ul>  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策などで、立憲首長が目立たない、政策実現能力が無いと思われる。(1)</li> <li>・実績がない。口だけ。(13)</li> </ul>  |
|      |                     | 人材育成      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○第二の蓮舫、辻本清美、森ゆうこを育てる(7)</li> <li>○惜敗した議員を党がちゃんと育てる(46)</li> </ul>  |  |   |
|      | ポピュリズムに対抗する組織マネジメント | 明確な政策の立案  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての議員だけでなく、個々のパートナーズも理解し第三者にも説明ができる政策を作る(17)</li> <li>○対象とするべきは高齢者ではなく、40代以下の子育て世代、シングルマザー、忘れられている氷河期世代(29)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○専門家を含めたオープンでリアリティのある熟議の場を形成する(17)(46)</li> <li>○地方の組織を充実させる(29)</li> <li>○経済政策についてより専門性の高い説明が必要(41)</li> <li>○各議員の自由な発言、活動を保証する(46)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○党の政策を理路整然と第三者に説明できるようにする(党→パートナーズのルートを確立する)(17)</li> <li>○市民の声を地元で吸い上げ、政治要求や政策まで育てる組織、パートナーズの仲間を増やす(31)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員の専門的知識が欠けているように見える。特に外交や安全保障。(9)</li> <li>・議員の発言を見ても自信が無さげに見える、はっきり意見が言える人が欲しい(9)</li> </ul>  |
|      |                     | 情報化社会への対応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ポピュリズム(トップダウン型)ではなく、真のボトムアップ型の政策立案を行う。(25)(27)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○政策立案過程の明確化(17)</li> <li>○具体的な世の中の活動とリンクした情報発信</li> <li>○多様な意見を持った人による熟議の実現(25)</li> <li>○有権者との双方向性の充実、多様な意見を持っている人を切り捨てない(41)</li> <li>○市民とのコミュニケーション強化(42)</li> <li>○社会貢献意識が高く改革志向の若者たちとの関係を強化する(47)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な意見を持った人のパートナーズ活動への参加促進(25)</li> <li>○大きな社会像を様々な若者たちががっつりと語り合える会合の場を、リアル、ネットで作り出していく。(47)</li> <li>○社会起業家、ソーシャルアントレプレナー、NPOリーダー、ビジネスパーソン、経済会の若手リーダーなど革新的でありながら社会の公正と平等の問題に強い関心を持つ人たち。(47)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボトムアップが分からない人が党の中に沢山いるのではない。(25)</li> <li>・自民や維新のポピュリズム/エコチェンバーに負けている(27)</li> <li>・レベルの低い国民に野党の存在意義を伝えていけるのか(29)</li> <li>・草の根やボトムアップをキャッチフレーズにしているが、現状は大きく立ち遅れている(42)</li> <li>・共助を志向する若者は、むしろ自民党に引き寄せられつつある(47)</li> </ul>   |
|      |                     | 公約評価      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の公約の進捗状況を明確化する(20)</li> <li>○自民党の公約をチェックする(20)</li> </ul>  |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場その場で公約がコロコロ変わる。</li> <li>・公約の扱いが軽すぎる(20)</li> </ul>  |
|      |                     | 場づくり      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地方政治の活性化、地方議員とパートナーズの交流促進(32)</li> <li>○「立憲シアター」の企画運営(37)</li> <li>○青空対話集会、野党ヒアリング、NPOとの連携、草の根民主主義(40)(45)</li> <li>○参政党を参考にする。黨員、サポーター、パートナーズが参加しやすく、活動しやすくする(41)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○パートナーズの組織化(31)</li> <li>○市民の声を地元で吸い上げ、政治要求や政策まで育てる仕組み(31)(33)</li> <li>○「立憲シアター」実行委員会(37)</li> <li>○青空対話集会、野党ヒアリング、NPOとの連携、草の根民主主義(40)(45)</li> <li>○お茶会、カフェなどの開催(46)</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方の議員の顔が見えない、市政の活動報告も聞いたことが無い(32)</li> <li>・地域の中で党の存在感が全くない、商工業は自民党、生活困窮者は共産党や公明党。全く草の根になっていない(33)</li> </ul>   |
|      |                     | ポピュリズム?   |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○若者の意見を聞いてくれる頼りになる代表というイメージ作り(42)</li> </ul>  |   |
|      | PR戦略                | イメージ戦略    |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自民党の統一教会のイメージ活用(3)</li> <li>○女性を中心とした「革新」のイメージをアピール(14)(49)</li> <li>○自民党の利権政治を批判する(19)</li> <li>○何をしたい、何を指す政党かを平易かつシンプルな言葉で表現する(21)</li> <li>○国会論戦の質を上げる(21)</li> <li>○開かれた党であることをアピールする(21)</li> <li>○「人気」を重要視する。包容力を重視。(12)</li> <li>○他党との違いを明確にする(48)</li> <li>○カジュアルな広報宣伝チラシの配布(51)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○趣味や得意分野などのサークル活動しながら党の政策などを発信する(28)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・枝野氏を党首から降ろしたことに啞然とした、辻元清美、森ゆうこを落選させてしまった。(12)</li> <li>・他党と区別がつかない万年野党(3)(18)</li> <li>・新代表になってから優柔不断に見える。(4)</li> <li>・内輪揉めばかりしているというイメージ(9)</li> <li>・メディア露出が足りない。(5)</li> <li>・党首の情報発信が面白くない。(13)(31)</li> <li>・党首脳部が地味、目立たない(40)</li> <li>・批判ばかりという批判に対して「これからは提案型」なんて、軸がぶれているにも程がある(48)</li> </ul> |

|          |         |  |  |                                   |  |
|----------|---------|--|--|-----------------------------------|--|
|          |         | IT戦略   | ○ユーチューブの活用SNSの活用(15)(20)<br>○支援者や友好的な人々の声(20)<br>○ツイッターの利用に習熟するべき(44)<br>○画像より動画。字幕付き。(44)   | ○得意なパートナーズが協力する(46)               | ・情報発信で負けている。維新に対しても発信力は劣っている<br>・PDFが多すぎる(20)  |
|          |         | 批判の姿勢  | ○対決姿勢が重要。ちゃんと批判するべきは批判する(20)(39)(44)(48)<br>○批判の物言いは止めるべき。ヒト批判ではなく、コト批判。(20)(27)<br>○自党の政策。批判はいらない。(17)<br>○党のPRではなく、今の日本の課題についてどう対応するかの情報が必要<br>○グラフを多用する(22) |                                   | ・批判や意見を出すのは大切(39)<br>・「野党は批判ばかり」を恐れすぎるな(20)<br>・批判から始まるのでは自党に票を入れてもらう理由にはならない(17)<br>・党の魅力などどうでも良い。社会をどうしようとしているかが重要(17)<br>・政治不信層を取り込めていない(44)                |
| 選挙       | 略称問題    |  | ○略称問題を解決するべき(2)  |                                   | ・略称「民主党」は国民民主党との区別がつかない(2)   |
|          | 旗幟      |  | ○候補者の選定に対して旗幟を鮮明にするべき(43)  |                                   | ・候補者の選定に対して旗幟が不鮮明であり何を狙っているのかよくわからなかった。(43)<br>・連合の反対で共産党との共闘が弱くなったが、では、逆に当選した議員は何人いるのか(43)  |
|          | 戦術      |  | ○一般の有権者が街宣で足を止めやすくするなど、細かな選挙戦術をもっとバージョンアップさせる(36)  | ○選挙期間中は候補者を当選させるための応援をしっかりとやる(36) | ・パートナーズや党、都連、総支部は市民や生活者の思いを掴めていない、聞いていない(36)<br>・選挙キックオフの野音を満席にできなかった(36)<br>・松尾候補に対する取り組みの不足、候補者の力不足、都連の責任である。(50)  |
|          | 組織      |  | ○総支部長が居ないところでも戦えるよう組織基盤を整える(23)<br>○広報宣伝チラシを作成し、総支部長がいないところでの配布ができる組織を作る。地方選の空白地域を無くす(51)  | ○若い世代が選挙に協力してくれるよう、常にリクルート活動を(26) | ・組織として「運営」に難がある  |
|          | 準備      |  | ○統一地方選では立ち遅れ感の無いようにしっかり準備をするべき(6)<br>○都連や辻元議員の取組を全国展開するべき(26)<br>○野党共闘は地域が判断(51)<br>○積極的な候補者の擁立。空白地域を作らない(52)  | ○統一地方選では立ち遅れ感の無いようにしっかり準備をするべき(6) | ・全体に立ち遅れ感があった。自民党との対立軸が見えづかった。(6)<br>・都連の予備選の試みは良かったが拡がりがなく、効果はほとんど無かった。(6)<br>・松尾あきひろ候補の良い点をアピールするチャンネルが不足していた。(6)  |
|          | IT戦略    |  | ○電話ではなく、SNSを活用した戦略を(26)  |                                   |  |
|          | 東京      |  | ○首都圏(特に東京)において盤石な地盤を築き上げることが最優先(26)  |                                   |  |
|          | 立党精神    | ○「私たちは、一つの価値観を押し付ける政治ではなく、国民のみなさんをつなぎ、日々の暮らしや働く現場の声を立脚点としたボトムアップの政治を実現します」を実践してほしい(25)(34)<br>○分かりやすいビジョンとアイデンティティが必要(42)                |  |                                   | ・立党精神が全く実施されていない(34)   |
| 政策の大きな方向 | 長期ビジョン  | 反自民としての民主主義  | ○民主主義を育てる(19)<br>○自民党の利権政治を批判する(19)<br>○自民党の専制政治を防ぐ(39)  |                                   | ・自民党は権威主義であり、利益団体のための政党である(19)<br>・専制(独裁)政治への復帰を防ぐ(39)   |
|          |         | 国家百年の体系  | ○50年後の理想とする社会、そのための10年後の現実を見据えた戦略体系(20)<br>○100年後にどのような社会を作りたいかを明らかにするべき(27)   | ○将来に責任を持てる若い人、専門家、多様な意見を集める(20)   | ○多様な意見を持った人が集まる(20)<br>○パートナーズを数100万人にすることを目標に掲げる(25)  |
|          | 振り切った政策 | ○基本政策を「振り切る」べきははっきりとこの国のあるべき姿を示し、必要なこと、捨てるべきことを明示する。生活者、未来の若者のためにすべきことを全うする。(10)<br>○中途半端な態度は改め、自らの大義と政策を堂々と提示する。(11)<br>○旗幟を鮮明にするべき(43) | ○マイノリティに優しい社会はマジョリティにも優しいと説いていくことで有権者をリベラルに変えていく(11)   |                                   | ・中途半端などつつかずの政策など誰も振り向かない、連合との関係も含め、労働者のためになるという政策を取っているとは思えない。(10)<br>・比例票が減ったのは、共産党との関係とは関係なく、従来からの支持者が減ったから。(11)<br>・中道右派を取りに行くという発想は、妥協主義的であり、敗北主義的である。(11) |

|      |             |   |  |   |                                      |   |
|------|-------------|---|--|---|--------------------------------------|---|
| 基本戦略 | 公正性         | 幅広い支持が得られる政策                                      | ○左右幅広い支持を得られる政策にするべき(17)<br>○新自由主義では無リアリティのある政策(17)<br>○大氷河期世代や老人、学生、子育て世代など、世代ごとの解決策を示す。(36)<br>○新たな経済成長戦略や大企業従事者や公務員など中間層復活に向けた経済政策を示す(36) | ○右から左まで幅広い層が支持していることの利点を生かす(12)<br>・辻元清美や森ゆうこを中心にする<br>・市民ボランティアを中心にする<br>○専門家を含めたオープンでリアリティのある議論の場を形成する(17)  | ○労組に頼らず、パートナーズをしっかりと票割できる組織にするべき(12) | ・政策の幅を狭めることで支持層を切ってしまう(17)<br>・ただし保守を看板にするな(12)<br>・現状は、反自民の塊ではなく、各政党の草刈り場になっている(36)  |
|      | 協力体制の構築     | 他党との関係  | ○野党各党との対話を行い認識や政策のギャップを埋める(17)   | ○れいわ新選組と連携するべき(7)<br>○日本維新の会と仲良くするべき。大きな野党第一党を目指すべき(18)<br>○非自民、非共産の政権(21)<br>○国民民主党と合併し、玉木代表を新代表(21)<br>○日本維新の会を徹底的に潰す(21)<br>○共産党としっかり連携するべき(26)(43)<br>○「緑の党」に相当する団体と連携するべき(27)<br>○共産党、社民党、令和と協力するべき(39)<br>○「野党合同ヒアリング」の活用(46) |                                      | ・立憲がちゃんと旗を振るべき(4)<br>・共産党との連携を断ったのは自分達の理想を作る気概を見せなくなった事の表れである(11)<br>・日本維新の会の「身を切る改革」はやろうとすることが明確(18)<br>・「野合」と呼ばれることを恐れるな(20)<br>・したたかな協力が必要、別に表に出さなくても良いのでは(41) |
|      |             | 労組との関係  |  | ○連合より共産党との関係を重視するべき(43)<br>○産業の都合を優先する連合を優先する政治では、厚い中間層の支持を得られない(46)  |                                      | ・労働組合とは是々非々の関係で(20)<br>・連合は統一教会なみに頼りになる(46)<br>・若者にとって、連合は古いタイプ(47)   |
|      |             | 公務員との関係   |  | ○官僚の敵視は止めるべき(20)<br>○国家公務員を味方にする(27)  |                                      |   |
| 基本政策 | 憲法          |   |  | ○やれることをやっていない点を中心に議論するべき(21)  |                                      |   |
|      | 誰も取り残されない社会 |   | ○マイノリティ政策などの特徴ある先進的な政策パッケージを大切にしているのは良い。票にならないなどという妥協は不要。(11)<br>○誰も取り残されない社会を作ることが最優先である。(20)<br>○北欧的な市民社会を実現する(32)                         |   | ○不当に差別されている人々の駆け込み寺／相談窓口を作る(27)(28)  | ・比例票が減ったのは、共産党との関係云々とは関係なく、従来からの支持者が減ったからである。(11)   |
|      | 大きな政府       |   | ○議員数を増やし、一票の格差をなくす(18)<br>○官僚の待遇を良くしブラックな労働環境を改善する(18)(20)<br>○増税し、社会保障・教育機会の確保を行う(18)(24)(51)<br>○少子化対策、一極集中に対する未来に向けた提言を行う(18)             |   |                                      | ・大きな政府を目指すなら、「身を切る改革」と真逆な事をしなければならない(18)<br>・むしろ社会保障や教育・保育といったテーマを重視する有権者の支持をつかめていない(24)  |
|      | 大きな政府？      |   | ○増え続ける老人を支える手厚い社会保障を維持するのは無理がある。それに変わる政策。(13)<br>○行政の効率化(20)   | ○様々な研究者、識者、他国のリベラル政党と議論をする(13)  |                                      | ・立憲は、大きな政府路線だと思うが、それが現実的ではない(13)  |
|      | 反「身を切る改革」   |   | ○都市部の中間層や若者への訴求(22)<br>○「改革」に対する「障壁」「抵抗」ではない「改革」(24)<br>○自助努力ではなく、支え合い、絆を強化する(42)  |   |                                      |   |
|      | 社会正義        |   | ○透明性を確保する行政文書や情報公開に資する法整備を進める(20)<br>○嘘の無い政治を作る(27)  | ○政党収入・支出を具体的に公開する(20)   |                                      |   |
|      | 財源問題・税制改革   |   | ○国会議員報酬の減額(28)<br>○消費税廃止、企業内部留保に課税、法人税上げ、累進課税実施(28)<br>○累進度の強化、課税最低限度の引き上げ、消費税率の低減、低所得者層への給付(42)<br>○規律ある財政運営の提示が必要(50)                      |   |                                      | ・国債の新規発行は妥当か？<br>・行政改革は必要が無いのか？   |
|      | 国政改革        |   | ○政党助成金・企業献金の廃止   |   |                                      |   |
| 経済   |             | ○企業活動重視の改革は必要がないのか？<br>○不要な規制撤廃<br>○競争的な市場の実現(27) |  |   |                                      |   |

個別政策

|             |   |   |  |   |
|-------------|---|---|--|---|
| 教育          | ○若い人への投資が必要(5)<br>○教育の無償化(22)<br>○教科書検定を地方自治体の教師が行う(28)   | ○地域視点での学校問題の解決(24)                          |  | ・公約に「教育」が入っているのは良かった(5)                 |
| 科学・技術力      | ○新たな輸出産業(42)<br>○ポストクの処遇改善、大学の研究予算の充実(42)   |   |  |   |
| 国土          | ○リニア・大深度の再考(42)   |   |  |   |
| 少子化         |   |   |  |   |
| 旧統一教会問題     | ○旧統一教会調査会の設置、キャンペーン(3)(39)<br>○反社会的団体の定義の復活(24)   | ○党内情報公開が必要(10)(15)<br>○問題に厳しく対応(40)(44)(46) |  |   |
| 安倍疑惑        | ○安倍疑惑の追及(39)  |   |  |   |
| 流域治水        | ○嘉田由紀子参議院議員が提唱する「流域治水」を推し進めるべき(8)   |   |  |   |
| 生物多様性       | ○工場緑地の郊外移転(8)<br>○森林環境譲渡税の活用(8)   |   |  |   |
| エネルギー問題     | ○原子力発電の再稼働、新增設、廃棄物処理問題の解決。リスクの明確化(8)(20)<br>○脱原発(21)(22)(38)<br>○再生可能エネルギー(20)(28)                      |   |  |   |
| 労働問題        | ○転職支援(20)<br>○労働市場の流動化(21)  |   |  |   |
| 病院・コロナ対策    |   | ○地域視点での病院問題の解決(22)                          |  |   |
| 外交安全保障、台湾問題 | ○ちゃんとした軍事力を(20)(28)<br>○理念なく9条に拘るべきではない(27)<br>○防衛強化、特にミサイル防衛に予算を振り分けるべき(35)<br>○戦争反対、専守防衛に徹するべきである(39) |   | ○日本人、中国人、台湾人が参加するボトムアップ型会議の実現。ボトムアップで戦争は絶対におきない。(25) |   |
| 多様性         | ○選択的夫婦別姓、同性婚(21)<br>○ジェンダー平等(22)  | ○女性候補を常に半数以上に(26)                           |  |   |
| 物価問題        |   |   |  | ・○「生活安全保障」ではなく物価高と戦う」のほう<br>が分かりやすい(22) |
| カジノ         | ○カジノ反対(22)  |   |  |   |
| 農業          | ○米を食料安保のファンダメンタルズとする(28)  |   |  |   |
| 被選挙権        | ○被選挙権年齢を引き下げる(22)   |   |  |   |